

知る由なく、ありのすさびに任せてはするぶん  
我儘も致し候心配もかけ候。未だ卒業後日淺き  
に事候へば何一つとして心を安めし事も候はず  
今よりこそ思ひ候ひしを。よし鼎は連ねずとも  
心を入れし養もがなと思ひしものを。早やその  
主はあらず「木欲静風不止」悠々として流れ盡せ  
ぬ白川のほとり、龍田おろしのすさぶ所、かれ果  
てたる白楊の下新しき墓標に萬斛の涙をそゞげ  
る孤兒の身の上御同情なされ度候。私は同胞六  
人に候へども姉二人は既に嫁して他の家の人に  
て候。修學中の二人の弟頑是なき一人の妹の後  
見るべき大責任は自然と私の肩におり申候。し  
かも私は私の中からだにあらす公のものにて候力  
なき身は學校のつとめものごとくしく玉に  
もまされる人の寶をいかにし果つるかご心も  
となう侍りしものを。今よりはこの兩大責任を  
いかにして果すか。思へばそら恐ろしく御座候  
且つ私は精神上にも身體上にも弱きものにて候  
あゝいかにせばよろしきやなしはせでたと思ひ

まごふのみにて御座候私は敬し奉る諸先生なつ  
かしき同窓諸姉の尊き御教導と暖き御同情とを  
切に希望して止まざるものにて御座候。かしこ  
編輯者より

一度はあはですむべきにあらぬ別れに候ふものながら、盡  
きせぬ悲しみは、無量の恩愛に報い得ざりし名残をしまに  
候ふを、此の頃の御上の御なげき、さぞしく察しまつり  
ては、奉るべき御慰の言葉もおぼけす候。都の塵につま  
れて事繁う明し暮らし候朝夕にも、ふさ「母亡き後の我が  
身」を想ひ候うては、いひやうもなきやるせなさを感じ申  
候を、君はまのあたり慈ふかき母君に別れさせ給ひしよご  
思へば、何とも申し上げやうもござなく候。されど、父君  
御健在の御事なればそなた様に頼らせ給ひ、事へさせ給  
ふ御事こそ、せめての御心やりには候はむ。御弟妹様方は今  
はひたすら、御許様をたのみきこえ給はむに、さる方に御  
心強く萬すおきてさせ給へやと祈り上げ候。御身を御大切  
にこそは只今念じ上ぐる唯一のこゝろにござ候。かしこ

●福岡より

八尋 かめ

こよみも大正二年と改り候て心も自ら新たに  
相成候おぼえ候、昨今の御地の御有様如何にご  
ざ候か。當地は昨日あたりより稍白きもの降り  
初め珍らしき心地致し候。(中略) 昨年末寄稿せ

よこの御下命下され辱く拜し上げ候。身に餘り  
たる仰せをせめて近況なりとも存じ候うち、  
俄に病魔におそはれ欠勤致し候やうの始末にて  
心にかゝり乍ら失禮致し候、彼是いたしをり候  
ほどに期日も相すぎ候ことなれば定めて御迷惑  
相かけ候こととたい恐縮の外これなく候。先は  
延引ながら御詫まで。かしこ

よこの御頼みもだし難くて何かと考へ居り候へ  
どもとみには浮びも來ず、舊稿など取り出し候  
ひしかども、かびの生えたるもの皆様の御目に  
かけんも恥かし候まゝさし控へ申候。此の次  
までには何か申し上げむと存じをりをり候に付、何  
卒此の度は御許したまはり度候。もはや御承知  
にても候はむかなれど、本年四月よりは同期卒  
業生戸田壽様當校に御務めの事に定まり申候へ  
ばこれにて同期卒業の三科の人々揃ひてつとむ  
る樂しさを今より豫想しつ、其の日の來るを待  
ち居り候。先は失禮ながら一等御返し申上候、

編輯者より

御病氣にあらせられし由、その後如何坐し候はむ、すゑ  
ふん御大切に遊ばされ度念じ上げ候。

國語教授につきて、諸先生方の御意見をこの仰せ、會員  
一同にまつて有益なるべき事に候へば、いづれその運びに  
致すべく一寸御答へ申上げ候。以上

●岡山より

井 淵 英

御端書ありがたく拜見いたし候。御多忙の御  
身を以て常に本會のため御盡力のこと謝し參ら  
せ候。才て此の度はつまらぬ身にも何か寄せて

編輯者より  
御多忙中を我儘なる御願ひ致し候を、ようぞ御返事たまは  
せられしと御うれしく存じ上げ候。此の次までには玉稿賜  
はせらる、由ありがたく御待ち申し上げ候。かつて一年間  
の御居間なりし五の側の櫻の再び、あかう開かむ日も近づ  
き參り候。上原株、御許業二方の御揃遊ばさるゝを御羨し  
き御事と誰れもく存じ上げ候ひつるに、なほ四月よりは  
戸田様御一緒に御なり遊ばさるゝさはよくくの御幸運と  
御よろこび申し上げ候。